

得意？ 苦手？ 発見シート(算数編)

名前

使用開始

年 月 日
(年生から)

子どもたち一人ひとりに合わせた学習を進めるためには、「どんな支援が必要なのか」を把握しておくことが有効です。ある子どもにとっては有効な支援が、別の子どもには有効ではないということもあります。A～Cについてふだんの学習や生活の様子から気づく点や気になる点をチェックし、事例を参考にしながら個別の指導・支援を検討する材料にしてください。

A 「読む」「書く」「計算する」「推論する」

学習と直接関わる領域です。ふだんの様子から「苦手」と感じられる項目に☑を入れて、「得意」「苦手」の差にも注目しながら支援を工夫しましょう。

- 読む 数字を正確に読むこと
 文章問題を読むこと
 図形や表・グラフを読み取ること
- 書く 数字を正確に書くこと
 図形の形を捉えてかくこと
 筆算など、位をそろえて書くこと
- 計算する 正確に計算すること
 暗算をすること
 計算方法を工夫しながら早く正確に計算すること
- 推論する 数量を比べたりイメージしたりすること
 言葉や文章問題の意味を理解・イメージして立式すること
 長さ・かさ・重さをはかったり、計算したりすること

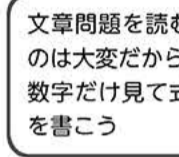
「得意」「苦手」の差がある場合、苦手(支援が必要)なほうを○で囲んでください。

- 数字を読むこと ↔ 数字を書くこと
 数を順に数えること ↔ 数量を理解・イメージすること
 計算すること ↔ 文章問題を読んで解くこと

子どもたちは…



「通分」って何？
どう計算したらいいの？



文章問題を読むのは大変だから、数字だけ見て式を書こう



「小数+小数」って、どこから計算したらいいかわからない

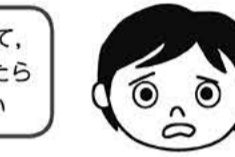


「単位をそろえる」なんて無理！

グラフを読み取るとき、いつもずれちゃうよ



どうして計算機を使ったらいけないの？



Aの苦手さが目立つ子への理解と支援

学習の基礎を支える「読む・書く」や「計算する・推論する」ことに苦手さがあります。一生懸命取り組んでもミスが多くなってしまい、自信をなくしてしまうこともあります。本人が負担なく取り組める問題量や時間を調整して、支援を工夫します。また、「数字は読めるけれど、書くことが苦手」「計算することは早くて正確だけれど、文章問題を読んで解くことが苦手」など、「得意」「苦手」の差がある場合は、苦手なほうを子どもの理解度に合わせて練習しつつ得意なほうを伸ばし、学習意欲を高めましょう。上級編では、より「言葉」の理解が必要になります。「内角の和」「割合」「度数分布表」など、言葉の意味や求め方などが理解できるように、子どもがわかる言葉や図を用いて、ていねいに説明しましょう。

B 社会性やコミュニケーション・想像力やこだわり

社会性やコミュニケーション、物事の捉え方や感じ方、想像力と関わる領域です。自分だけのやり方が決まっていたり不安が強かったりして学習が進みにくいこともあります。苦手と感じられる項目、気になる項目に☑を入れて、本人に合う支援を工夫しましょう。

- 文章問題から状況をイメージすることが苦手
 数量をイメージすることが苦手
 図形やグラフをイメージすることが苦手
 わからないことを質問したり説明したりすることが苦手

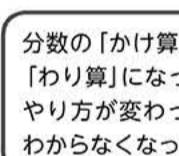
気になるところ

- 誤りを訂正したくない(間違いたくない気持ちが強い)ところ
 言葉どおりに受け取る(書いていないことはイメージしにくい)ところ
 全体より細かい部分に注目しやすいところ
 指示や問題のパターンが変わると不安になるところ
 計算方法に自分のルールやこだわりがあるところ
 特定の刺激(光や音など)に敏感であるところ

子どもたちは…



計算はいつも同じやり方がいい



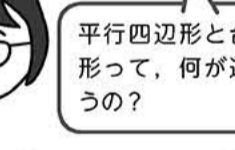
分数の「かけ算」から「わり算」になって、やり方が変わったらわからなくなったよ



「全体の何割ですか」って何を聞いているの？



平行四辺形と台形って、何が違うの？



計算の答えが合っているか、すぐに確かめたい！

Bの苦手さが目立つ子への理解と支援

目には見えないものをイメージしたり形を想像したりすることに苦手さがあります。「正しい答えを求めたい」という気持ちがあっても、数量をイメージすることや要領よく計算することが苦手です。文章問題などは、意味や状況がわかりやすいように具体物やイラストなどを使って示したり説明したりして支援します。計算に本人の「こだわり」がある場合にはある程度尊重し、「敏感さ」「不安」を軽減できる声かけをしたり環境を整えたりして、安心して学習できるようにしましょう。

C 注意・集中や気持ちのコントロール

注意・集中や気持ちのコントロールに関わる領域です。枠にとらわれずユニークで楽しい子どもも多いのですが、コントロールが課題になることもあります。苦手と感じられる項目、気になる項目に☑を入れて、本人に合う支援を工夫しましょう。

- 学習にさっと取りかかることが苦手
 待つことや、落ち着いて座っていることが苦手
 課題に集中して最後までやりとげることが苦手
 注意深く見直しをすることが苦手

気になるところ(または、よいところ)

- ケアレスミスや書き忘れ・間違いが目立つところ
 途中の式をとばして、急いで答えを出すところ
 独自のアイデアや方法で考えるところ
 調子がよいときとそうでないときの差が大きいところ
 いらいらや落ち込んだ気持ちが長引いてしまうところ
 見えるものや聞こえる音などに敏感に反応するところ

子どもたちは…



自分で自由に問題を作りたい



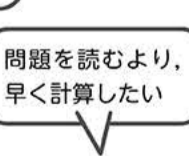
問題を読むより、早く計算したい



また、ノートを忘れました…



見直しなら、いつもしてるよ。パパッと！



電池切れ。もうできない



ミスが多くて、もうやりたくない！



ミスが多くて、もうやりたくない！



Cの苦手さが目立つ子への理解と支援

一定時間、一つのことに集中することや、注意力をコントロールすることが苦手です。急ぎすぎたり、急に止まってしまうたり、やる気があってもミスが多くて安定しないこともあります。ミスが出る前に「小数点に気をつけて」など「注意するポイント」を伝えておくことも有効です。落ち着いて取り組める環境を整え、学習時間や問題の量を調整しながら支援します。一問ずつ○をつけたりほめたりしながら、「できた」を一つひとつ積み重ねていきましょう。

ガイドブック 事例①～⑧へ